

植物由来のフェノール性成分の抗酸化活性

有効成分	DPPH・消去活性 (IC ₅₀)	リノール酸自動酸化阻害活性 ($\mu\text{mol Trolox eq/L}$)
ケルセチン (図1)	11 μM	1082
ルテオリン (図2)	12 μM	1059
アピゲニン (図3)	3 mM	17
ディオスマチン	活性なし	176
クロロゲン酸 (図4)	22 μM	701
コーヒー酸 (図5)	14 μM	489
p-クマル酸 (図6)	3 mM	16
トロロックス (標準品)	22 μM	-

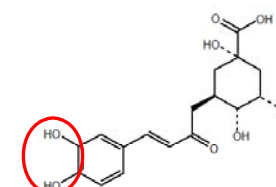
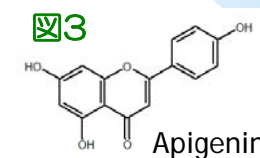
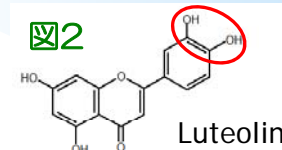
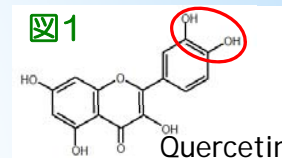


図4 Chlorogenic acid

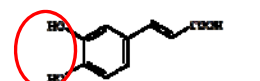


図5 Caffeic acid

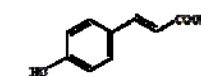



図6 p-Coumaric acid

植物由来のフェノール性成分のうち、カテコール型 (図の  部分) の構造をもつものが高い抗酸化活性を有することが示唆されました。